令和３年度　宇美町立宇美南中学校　学校評価（最終評価）まとめ　　宇美町立宇美南中学校

志をもって学び，心豊かでたくましい宇美の子ども

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
ふるさと宇美を愛し，志をもって，たくましく未来を生きる生徒の育成	「自立・自律に向けた自己指導能力の育成」　～「もう一人の自分」に気づく・から見つめる・が育てる～

方策	項目	中項目	小項目(教育活動・内容)	中間	最終	中間	最終	評定	成果○と課題●	学校運営協議会委員の意見【評価】
方策１	１磨き合う集団づくり	(1)人権意識の醸成【思い合う言語】	①規律の徹底(うみしぐさ：あいさつ，黙働掃除，時間)	3.39	3.39	3.33	3.40	A	(1)①○学校生活向上研修や修学旅行の事前の取組を実施したこともあり，あいさつをする生徒が増えたり，掃除場所をすみずみまで掃除する生徒，2分前のチャイム席を守る生徒が増えたと感じます。 (1)②○生徒会や各学年の取組を通して，他者を認める言葉かけを計画的に実施できたと考えます。 (1)③○生徒の日常に即した資料を選定し，計画的に道徳教育が行うことができました。 (1)④○板書で使う色や文字の大きさに配慮することや学級掲示物等の工夫など，特別支援教育の視点を意識した指導や取組ができています。朝の会を利用して，ビジョントレーニングや特別支援教育の視点に基づいた取組を実施できました。初めての取組を全校で実践したことは良いと思います。また，特別支援コーディネーターの助言や資料提供も，あり，各学年で進めやすかったと思います。この取組を通して多くの先生方にその意義を理解してもらうことができたと思います。 (2)⑤○読み取りと助言の時間がしっかりと確保されたQU研修，指導主事の指導助言を受けるや学年会議，SCを招いてのケース会議があり，QUから見る学年の生徒の状況を共有できたことも良かったです。 (2)⑥○生徒会役員を中心に，ふわふわ言葉四箇条の取組等，様々な取組を，異年齢集団で行うことができました。学習成果発表会では，コロナ禍で，制限した中での活動ではあったが，3年生を中心に活発な異年齢活動を行うことができました。 (2)⑥●チーム制については，リーダーが自信をもって指導できるように準備の時間や指導の時間を確保する必要があると思います。	○成果が出ている手立て(①強化週間，学校行事等につなげる取組，②生徒会と協同して行う分析時間の保障，③Q-U，取組共有，学年会議(ケース会議，学年主任，運営委員会の確実な伝達))が向上につながっているようです。 ○黙働掃除が学校内に慶一つない程できていて感心しました。 ○様々な日常の場面で，集団のリーダーとなり，頑張る。その姿を他の生徒が見て，認め，互いに思い合うことが理想だと考えます。年齢的にも難しい時期ですが，この時期に取組を継続してことが，子どもたちが高校生，社会人に成長していく中で身に付けることにつながると考えます。 ○学校評価の全ての項目で向上が見られ，成果が上がっていることがよくわかります。南中に「つなぐ」ために原田小でもQ-Uを活用してより良い人間関係を築いていこうと思います。 ●生徒の参画意識の啓発がさらに有効ではないでしょうか。 ●朝のあいさつは，区外の人にはあまりしません。 **【３．５０】※４段階評定尺度　平均値**
		(2)人間関係形成力の育成【認め合う関係】	④特別支援教育の視点に基づく生徒理解及び個々の良さを発揮する個別支援の充実	3.22	3.65					
			⑤Q-U調査を活用した積極的生徒指導の教科指導・学級指導の実践	3.22	3.22					
			⑥生徒会チーム制による異年齢活動での主体性の発揮	3.22	3.22					
方策２	２学び合う集団づくり	(1)学びに向かう力の育成【鍛え合う思考】	①南中学びスタイル(対話活動・ふり返り・家庭学習等)の習得に向けた取組の工夫	3.11	3.11	3.19	3.16	B	(1)①○ふり返りシートを活用した単元末レポートを課し，評価を加え，学年のフロアに掲示することができました。 (1)②○「視写課題」を通して，生徒の「書く力」を高める活動に全校で一体となって取り組めています。 (1)③○南中学力向上プランと教科指導・学級指導の連携についても昨年度より連携ができていると思います。 (2)④○コロナ禍において，対策を講じながら計画的に夢実現講演会を実施し，自分の将来について考えさせる機会にすることができた。また，講演会後はすぐにふり返りを行い，生徒の学びが見える掲示物を作成し，学年通信やＰＴＡ広報誌にて発信することができました。講師を直接お招きし，講話を聞くことがとても貴重な機会でした。 (2)④⑤○クロームブックを使って将来のことについてまとめる活動を通して，基礎的・汎用的能力の育成につなげることができました。 (2)⑥●カリキュラムマネジメントについては，教科横断的な研修を進めていく必要があると思います。	○第1，2学年で学力向上の成果が見られています。生徒の感想として「分からまで教えてくれる」「褒めてくれる」が全学年向上しており，学校全体で努力目標を共有できていることが有効な手立てとなっているようです。ICTの効用感も9割を超えているので先生方の研修と授業改善の努力の成果が出ていると言えます。感想文や条件作文と関連付けた視写の取組がよいです。6行全て感想を書かせるのか，上段2行は要約させるのかある程度慣れたら1ランクアップさせることもできそうです。 ○世の中がどんなに進んでも，基礎学力だけは必要だと考えます。 ○コロナ禍で対面，集団での学び合う活動は難しいところが多かったと思います。 ○コロナ禍で，「夢」へと向かう子どもたちが実際に働く人たちと直接関わる機会が減っていることは残念ですが，校内で少しでも働くことへの取組をしていただいていることに感謝しています。 ○キャリア教育の取組を様々に工夫されており，すばらしいと感じます。原田小も学校としてできるキャリア教育を進めていこうと本年度から取り組んでいます。 ○コロナ禍の学校運営に心から感謝いたします。生徒にできる限り経験，体験を積ませていただきたいと思います。 **【３．５０】※４段階評定尺度　平均値**
			②授業における「書くこと」の学習活動の実践	3.44	3.44					
			③「南中生徒会学力向上プラン」の取組と教科指導・学級指導の連動	2.67	2.67					
		(2)生きて働く力の育成【輝き合う夢】	④キャリアデザイン「夢実現」プログラムの推進におけるキャリア教育能力の育成	3.78	3.65					
			⑤夢や目標の自己表現機会の充実	3.39	3.39					
			⑥他教科等と連携するキャリア教育カリキュラム・マネジメントによる授業実践	2.72	2.72					
方策３	３組織の機能化	(1)南中チＰＲＩＤＥチーム指導の充実	①目標の共有と協働性を発揮するチーム指導の充実	3.39	3.39	3.40	3.40	A	(1)①○生徒支援，生徒指導の充実を図るために，関係機関との連携を密に行うことができた。迅速かつ的確に，教員間の情報の共有を徹底して行うことができました。 (2)④○ＣＳフォーラムやＣＳサロン，ＰＴＡ草取花植ボランティアといった地域人材を活用した取組によって，生徒の頑張る姿を保護者や地域の方々に見ていただく機会をもてました。 (2)④○ＣＳの取組で，小学生との交流では，生徒会や３年生を中心に，中学生としての立ち居振る舞いを，小学生に示すことができました。 (2)⑥●小中９年間で育成すべき資質・能力等について整理するとともに，中学校は小学校の指導について知り，小学校は最低限身に付けるべきことを把握するために，さらに小学校と交流する必要があります。	○生徒，家庭，地域とともに多くの取組を実践されていることに頭が下がります。 ○学校，家庭，地域の三者が目標を共有することが大切だと考えます。 ○学校文化として学年チームが強固であると感じています。小学校もその点を学びながら，来年度の校務分掌を考えていきたいと考えます。小中連携は1小1中のようがあらわれていると考えます。 ●生徒，家庭，地域とともに実践する取組が組織として機能しているかがデータから見ることができませんでした。それぞれの実施計画に他の取組との関連が示されるとわかりやすいと考えます。「南中PRIDE」を先生方がどう認識されているのかを伺いたいです。 ●学びと活動の関連性について，様々な活動を実施されているので，計画を立てる際にどんな学びが得られるのかを把握したうえで取り組ませることが大切だと考えます。 **【３．３０】※４段階評定尺度　平均値**
			②共有化シート活用による報告・連絡・相談の徹底	3.67	3.67					
			③チーム・迅速・適切な初期対応の徹底	3.44	3.44					
		(2)三者連携の協働活動の活性化【社会に開かれた教育活動の実践】	④地域連携触れあいと人材活用の場づくりの実践（学校行事・学校公開・CSサロン等）	3.56	3.56					
			⑤PTA連携「家庭教育３か条」の発信と浸透	2.83	2.83					
			⑥小中連携活動の充実（あいさつ運動，授業改善研修等）	3.50	3.50					
方策４	４教職員の研修の充実	(1)マネジメントする職能向上システム	①ＱＵに学ぶルールとリレーションを確立する集団づくりの主体的な研鑽	3.17	3.35	3.37	3.38	A	(1)①○年２回のＱＵ調査について，教育委員会から指導主事をお招きし，分析と改善策を検討するなど，集団づくりにむけた研鑽が学校全体で取り組めていると思います。 (1)①○修学旅行等の学校行事と関連付けて短学活で互い認め合う活動を実施できました。 (1)①○ＱＵ調査の結果を参考にしながら，集団づくりに向けた活動を各学年で実施できていました。ＱＵ調査の分析等の時間が確保されていたため，実現できたと感じます。 (1)①○各学年で互いの良さを認め合う取組を行った結果，生徒の意識が少しずつ変わり，良好な人間関係の形成につなげることができました。 (1)②○ＩＣＴを積極的に活用した対話活動が多くの教科で実施されており，各先生方が授業スキルの向上に努め，情報教育担当からも様々な通信を発行されています。 (1)③○生徒による授業アンケートを分析し，自身の授業改善に反映させる取り組みが研究推進部より発信されていると考えます。 (2)④○町の指導主事や糟屋区の指導教員の先生方に授業参観していただき，指導力の向上に励む先生が多いと感じます。 (1)②●ＩＣＴ活用については，積極的に活用しようとする意識の向上のために，効果的な実践例や方法を共有することが必要であると考えます。教科の特性に合わせた使い方について研修を深める必要があります。（ＩＣＴを活用する場面，しない場面の精選等）	○Q-U分析，ICT活用による授業改善，生徒による授業アンケート等の調査結果，学力向上に係る成果が見えます。一方で，基本的な教科毎の指導法の共有，小テスト及び定期考査の作問スキルの共有，家庭学習の課題の検討等を関連付ける研修の実績について資料を提示していただきたい。 ○長引くコロナ禍でICT活用の技能に係る相互研修は大変だと考えます。 ○若い先生方が多い中，キャリアステージに応じた人材育成が大切だと考えます。チーフ・マネージャー制やベテラン教師のモデル化など有効だと思いました。 ○ICT活用はこれから先の教育現場では必須になると思います。技能を身に付けさせるための研修をよろしくお願いします。 ○新型コロナウイルス感染が広がる中で，できることをやるしかないと思いながらやってきました。中学校も同様だと思います。そのような中，合同研修が実施できたことを嬉しく思っています。来年もよろしくお願いします。 **【３．６０】※４段階評定尺度　平均値**
			②ＩＣＴ活用の授業実践	3.39	3.24					
			③各評価物（生徒授業評価・学校評価等）の分析と改善を強化する検証改善サイクルの実践	3.53	3.53					
		(2)校内OJTの機能化	④職能及び指導力（教科・生徒）向上の育成ステージの研修機会の浸透と実践	3.41	3.41					
方策５	５教育環境の充実	(1)良さを引き出す人的環境	①率先垂範，師弟同行するモデル環境づくりの実践	3.56	3.56	3.24	3.32	A	(1)①○生徒への声かけやあいさつ，黙働掃除，時間，言語環境に係る指導において，南中の職員の良さがよく発揮されていると思います。 (1)②○学年や生徒会，分掌といった様々な側面から他者を大切にする言語環境づくりに取り組むことができた。行事等でのふりかえりや教育相談などを適切に行い，生徒理解に努めることができました。 (2)④⑤○学びの跡が見える掲示物や学年通信等の充実は南中の文化になってきていると思います。自己存在感や自己有用感を高める実践が年々良くなってきていると思います。 (2)⑥○安心できる環境づくりのため，相談ポストの活用やほっとルームの名称変更，津島先生による啓発（通信のコラム）を実施しました。 (3)⑦○水曜日が５校時時制となり，残務整理の時間に当てることができました。 (3)⑧●会議や文書作成及びアンケート調査等，様々な手続きが本当に必要であるか見直しを行う必要があります。	○物的環境については直接拝見したいです。言語環境については，学力に係る取組，学校発信，人間力につながる取組，生徒会による発信がきちんと整理されていてすばらしいと思います。授業においては，教授型の授業より，ディスカッション型の授業が多いのかも実際に拝見したいです。 ○教育環境の中で一番大切なのは，先生方の姿だと思います。先生方が楽しくやりがいをもって仕事ができるよう負担が少しでも軽減できるように取り組んでほしい。その姿が子どもたちにとって一番いい環境だと思います。 ○働き方改革は，部活動の関係で小学校よりも大変だと思います。あいさつについては，積み上げが大切なので，小学校も一層取組を進めていきたいと思います。 **【３．４０】※４段階評定尺度　平均値**
			②他者を理解する共感的人間関係づくりの実践	3.39	3.39					
			③他者を大切にする言語環境づくりの実践	3.17	3.17					
		(2)共生と安心の物的環境	④共に学び合う学びの環境づくり（学び合いの機会，環境整備，掲示物等による共有場面づくり等）	3.67	3.67					
			⑤学びや夢の見える校内掲示物の更新及び情報発信の充実（各種通信，HP）	3.83	3.83					
			⑥自己存在感を生み出す居場所づくりの実践	3.17	3.17					
		(3)働き方改革を推進する職場環境	⑦意識改革を推進する目標退校時間の設定やフレッシュ退校の実践	2.39	3.06					
			⑧業務改善の具体的取組の推進（会議の縮減，文書等のＩＣＴ化，事績データ活用による効率化）	2.72	2.71					
指導の基盤	６率先垂範 師弟同行	モデル化の協働実践の徹底	①積極的な生徒指導「鍛えて！ほめて！励まして」の指導の実践	3.28	3.53	3.39	3.57	A	①○生徒のがんばりや努力を積極的に認め，賞賛することができました。また，指導の場面では，職員が協同して生徒指導を行ったり，学年集会で説諭や指導を行ったりするなど，適正かつ柔軟に対応することができました。 ②○あいさつ四箇条や黙働掃除四箇条の標語コンクールや生徒会での強化月間としての取組ができています。	○学力向上，生徒による教員イメージの向上，生徒による授業アンケートにおける意識向上，Q-Uにおける満足度等，先生方の取組が生徒に伝わっている印象です。特に学校生活調査の結果はすばらしいです。Q-U調査に見る学校生活満足群が55．6％という結果について何が不満なのか，向上欲から生まれてくるものなのか見極めが必要です。 ○時間の見通しを立てることはとても大切なことです。ご指導お願いします。「あいさつ四箇条」は社会人になるために今から身に付くとよいと思います。よい取組だと考えます。 ○「鍛えて，ほめて，励まして」がすばらしいと思います。これは子どもだけでなく，大人にも大切なことだと思うので私自身，教頭や主幹教諭，職員に対してももっとほめて，励ましていこうと心に誓っています。 **【３．５０】※４段階評定尺度　平均値**
			②あいさつ四箇条の実践	3.50	3.53					
			③黙働掃除四箇条の実践	3.39	3.65					
			④時間の指導（時間を守る・時間を使う・時間を見通す）の実践	3.39	3.59					
危機管理	７社会性	(1)不祥事防止	①南中不祥事防止プランに基づく当事者意識の不祥事防止の徹底	3.89	3.94	3.78	3.88	A	(1)①○毎月，タイムリーな話題を提供していただけるので，日頃の自分の言動を見つめ直す機会となっています。 (2)②○昨年から校内の感染症対策をゆるめることなく行っています。また，自己の体調管理も意識的に行っています。	
		(2)新しい生活様式	②新型感染症に係る新しい生活様式の自らの実践と指導の徹底	3.67	3.82					